

平成 27年度 学年[高2] 教科[コミュニケーション英語Ⅱ (4単位)]

| 教科・分野 | | 週時間数 | クラス | コース | 担当者 |
|---------------|--------|--|---|--|--|
| 英語a | | 4 | ABCDE | 文理コース・生命科学コース | 是近 博志・中嶋 多美子 |
| 目 標 | | 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を養う。 | | | |
| 評価の観点 | | コミュニケーションへの 関心・意欲・態度 | 外国語表現の能力 | 外国語理解の能力 | 言語や文化についての知識・理解 |
| | | コミュニケーションに関心を持ち 積極的に言語活動を行い、コミュ ニケーションを図ろうとする。 | 英語で話したり書いたりし て、情報や考えなどを適切 に伝えている。 | 英語を聞いたり読んだりし て、情報や考えなどを的確 に理解している。 | 英語やその運用についての知識を身に付 けているとともに、言語の背景にある文化 などを理解している。 |
| 大切に育てたい もの | | 学習のしかたを工夫し、仲間と協 力しながら学ぶことの喜びを体験 させる。 | ペアワークなどを通して、 実際に英語を用いて表現 させる。 | 英文を繰り返し学習するこ とで段階的に理解を深め させる。 | 英文の背景にある文化や、国際社会の諸 問題などについて考察し、異文化理解を 深めさせる。 |
| 学 期 | 考 査 | 学習内容 (Topic) | | 言語材料 (Form) | 学習到達目標 (CAN-DO) Skills for Dictogloss |
| 1 学 期 | 中間 | ① Lesson 1 An Abundant Well That Never Runs Dry ② Lesson 2 Are You Really a Sloth? | | ①単純形と進行形 関係副詞・最上級 ②助動詞 分詞構文(1)・仮定法(1) | Reproduction 教科書のサマリーを聞き、メモから英文を 組み立てることができる。 |
| | 期末 | ③ Lesson 3 Designed to Change the World ④ Lesson 4 The Story of the Teddy Bear | | ③否定表現 過去完了・仮定法(2) ④仮定法(3) there を用いた表現 | Dictogloss 英検準2級レベルの初見の英文を聞き、ペ アで協力しながら再生活動を行うことが できる。 |
| 2 学 期 | 中間 | ⑤ Lesson 5 The Miracle of Fermentation ⑥ Lesson 6 Shedding Tears for My Patients | | ⑤無生物主語 関係詞・倍数表現 ⑥未来を表す表現 動名詞 | Story-Retelling 教科書のサマリーを聞き、メモから英文 を再構成する際に、できるだけ別の語句 を用いて表現することができる。 |
| | 期末 | ⑦ Lesson 7 Inspired by Nature ⑧ Lesson 8 Finding the Real Sana Claus | | ⑦副詞的表現 分詞構文(2)・不定詞(1) ⑧付帯状況 未来完了・不定詞(2) | Dictogloss 英検2級レベル初見の英文を聞き、ペ アで協力しながら再生活動を行うことが できる。 |
| 3 学 期 | 期末 | ⑨ Lesson 9 The Underground Reporters ⑩ Lesson 10 Is the Internet Making Us Stupid? | | ⑨省略 「suggest that S should V」 ⑩挿入 倒置・仮定法(4) | Story-Retelling 英検準2級レベルの初見の英文を聞き、 メモから英文要約を作成する際に、でき るだけ別の語句を用いて表現すること ができる。 |
| 評 価 の 方 法 | | 定期考査, 小テスト, 課題提出, 授業への取り組み(ノート点検を含む)を総合的に評価する。 | | | |
| 学習活動の特徴 | | 予習プリントによるQ&Aと、サマリースピーチ, リプロダクションの活動をペアワークを中心に行う。英文理解を深め、学習内容を定着させるために、同じ英文を繰り返し学習する。したがって、教科書と副教材から、学習段階に応じて教材を選択して学習する。 | | | |
| 授 業 の 形 態 | | それぞれホームルーム単位で授業を行う。 | | | |
| 使 用 教 科 書 | | 『Pro-Vision English Communication II 』(桐原書店) | | | |
| 使 用 副 教 材 | | 『Pro-Vision English Communication II WORKBOOK』(桐原書店) 『データベース4500』(桐原書店) 『アップグレード』(数研出版) | | | |
| 用 意 す る も の | | 教科書, ノート, ワークブック, 辞書 | | | |
| 備 考 | | | | | |

平成27年度 学年[高2] 教科[英語表現Ⅱ(1単位)]

| 教科・分野 | 週時間数 | クラス | コース | 担当者 |
|-------------|--|--|--|--|
| 英語B | 1 | ABCDE | 文理コース・生命科学コース | 松村亜貴子・新谷康男・是近博志・山本和美・小寺裕之 |
| 目 標 | 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を伸ばす。 | | | |
| 評価の観点 | コミュニケーションへの 関心・意欲・態度 | 外国語表現の能力 | 外国語理解の能力 | 言語や文化についての知識・理解 |
| | コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。 | 事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら英語で伝えている。 | | 英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。 |
| 大切に育てたいもの | 学習のしかたを工夫し、仲間と協力しながら学ぶことの喜びを感じながら、意欲的に活動させる。 | 英文エッセイやスピーチ原稿などを、学習した文法を活用し、内容を工夫して論理的に表現させる。 | | 英文の背景にある文化や、国際社会の諸問題などについて考察し、異文化理解を深めさせる。 |
| 学 期 | 考 査 | 学習内容 (Topic) | 言語材料 (Form / Grammar) | 機能 (Function) 学習到達目標 (CAN-DO) |
| 1 学 期 | 中間 | Lesson 1(お花見) Lesson 2(漫画の楽しみ) Storytelling Lesson 3(京都へ観光に) | 主語の決定 主語になる名詞句 名詞と冠詞 自動詞と他動詞 | 日本の年中行事をひとつ英文で説明することができる。 アニメや漫画について英文で説明することができる。 留学生と行きたい場所を英文で説明することができる。 |
| | 期末 | Lesson 4(私の家族です) Lesson 5(保育園での職業体験) Lesson 6(サプライズパーティー) Lesson 7(映画のお誘い) Role-Playing | SVO/SVOO SVC/SVOC 使役動詞/知覚動詞 直接話法と間接話法 呼応/時制の一致 | 家族を紹介する英文を書くことができる。 部活動を紹介する英文を書くことができる。 与えられた英文に続く物語文を書くことができる。 友人を映画に誘う英文を書くことができる。 |
| 2 学 期 | 中間 | Lesson 8(航空管制官になる) Lesson 9(趣味はピアノ) Lesson 10(タイタニックを見て) | 現在進行形 過去進行形 能動態と受動態 | 将来の夢について英文を書くことができる。 趣味について英文を書くことができる。 好きな本について英文を書くことができる。 |
| | 期末 | Lesson 11(世界遺産の魅力) Lesson 12(ボランティア活動) Listening for Numbers Lesson 13(制服に賛成? 反対?) Lesson 14(ローマの魅力) | 仮定法 助動詞 情報構造 数量 後置修飾 | 百万円をどのように使うか英文を書くことができる。 ボランティア活動について英文を書くことができる。 制服について賛成か反対の立場で英文を書くことができる。 外国で行きたい場所について英文を書くことができる。 |
| 3 学 期 | 期末 | Lesson 15(思い出の写真) Lesson 16(科学技術の利用) Lesson 17(携帯電話は便利だけど) Writing a Blog | 関係詞 副詞句 副詞節 前置詞 | 思い出の写真について英文を書くことができる。 科学技術の功罪について英文を書くことができる。 携帯電話の功罪について英文を書くことができる。 |
| 評 価 の 方 法 | 定期考査, 小テスト, 課題提出, 授業への取り組み(ノート点検を含む)を総合的に評価する。 | | | |
| 学習活動の特徴 | 参考書を参照しながら、英文法の基礎を学習する。さらに、日常的なコミュニケーション活動へと応用できるように、ネイティブによるOral Communication / Writing の授業との連携を図る。また、「コミュニケーション英語Ⅱ」の授業と連携し、教科書の英文を用いたリプロダクション等の活動を通して言語材料(文法項目, 表現等)の定着を図る。 | | | |
| 授 業 の 形 態 | それぞれホームルーム単位で授業を行う。 | | | |
| 使 用 教 科 書 | 『Vision Quest English Expression II』(啓林館) | | | |
| 使 用 副 教 材 | 『Vision Quest English Expression II WORKBOOK』 | | | |
| 用 意 す る も の | 教科書, ノート, ワークブック, 辞書 | | | |
| 備 考 | NELP (Native English Language Program)の生徒はネイティブによる発展的な学習を含む。 | | | |